

動物臨床検査学実習

VT コース専門科目 1年後期・2年前期 78時間 3単位 実習 必修

講師 野瀬修央

実務経験のある授業科目	有
実務経験の内容	動物園における獣医療・研究・種の保存に係る業務
学科・クラス指定等	ベテリナリーテクニシャン1年・2年
学習目標	診療現場に必要な生体検査や検体検査の基本的な手技・応用力を身につけ、動物看護師の役割を理解し、手技を習得する。
学 び の キーワード	尿検査・糞便検査・血液検査・眼科検査・耳の検査・皮膚科検査・x線検査・超音波検査・内視鏡検査など
準備学習及び復習の内容・履修条件	講義で習得した検査の知識と検査の基本的な手技を復習し、基本的な手技の反復と応用力をもって正確性を身につける。実習後、検査手技及び検査の流れを復習する。
授業方法	学校付属の動物病院にて実際に動物を使って検査の流れ（検体採取、検査実施、結果の考察）を複数回行い、基本的な手技を理解し、応用力を身につける。期末試験を実施して学習理解度を高める。
成績評価基準	実習試験において、検査の流れを理解し、実践できること。
備 考	
授業回数	
1～3	動物の状態を把握し基礎情報を収集、カルテに記載できるよう記入法を学ぶ。
4～6	検査に必要な検査用具と検査の目的を学ぶ。
7～9	犬・猫の扱い方と保定に必要な知識と技術を学ぶ。
10～12	エリザベスカラーの使用目的と使用法、口輪の使用法を学ぶ。
13～15	エキゾチックアニマル（哺乳類）の扱い方と保定を学ぶ。
16～18	エキゾチックアニマル（鳥類、爬虫類）の扱い方と保定を学ぶ。
19～21	眼科検査、耳の検査の目的を理解し、検査時の保定を学ぶ。
22～24	各種注射法を理解し、採血・各種注射時の保定を学ぶ。
25～27	レントゲン撮影の仕組み・操作法を理解し、適切なポジショニングと保定を学ぶ。
28～30	心電図検査、超音波検査の仕組み・操作法を理解し、適切なポジショニングと保定を学ぶ。
31～33	皮膚、被毛、眼、耳、口腔の身体検査の正常と異常について学ぶ。

34～36	筋肉、リンパ節、呼吸器、消化器、泌尿生殖器系の身体検査の正常と異常について学ぶ。
37～39	バイタルチェック①、体温、脈拍、呼吸数、体重、各項目の測定手技と正常値を学ぶ。
40～42	バイタルチェック②、股動脈圧、CRT、尿生産量、血中酸素飽和度、各項目の測定手技と正常値を学ぶ。
43～45	幼若動物、老齢動物の身体検査と全身評価について学ぶ。
46～48	聴診器の使用法を理解し、呼吸音、心音の正常音と異常音について学ぶ。
49～51	調剤①、医薬品の扱い・管理・廃棄・処方箋について学ぶ
52～54	調剤②、医薬品の種類、調剤方法、投薬方法について学ぶ。
55～57	創傷管理、褥瘡管理について学ぶ。 包帯法の種類、目的を理解し、包帯法の手技を学ぶ。
58～60	温湿布、冷湿布の目的、手技を学ぶ。 吸引法の目的を理解し、手技を学ぶ。
61～63	衛生管理（消毒薬、消毒法）の目的と手技、感染症について理解する。
64～66	医療廃棄物、感染性廃棄物について理解し、動物病院内の衛生管理について学ぶ。
67～69	輸液、補液の目的を理解し、輸液、補液、血管留置の手技を学ぶ。
70～72	輸液ポンプの構造を理解し、輸液ラインの接続、設定を学ぶ。 皮下点滴の目的を理解し、皮下点滴の方法を学ぶ。
73～75	各種検査手技の確認をし、正確性、迅速性の習熟度を高める。
76～78	各種検査法の理解度を試験により確認する。